校長室だより

平成３０年度
１０月３１日
ＮＯ．６

９月に文部科学省より「児童生徒の携行品に係る配慮について」という通達が出されました。いわゆる「置き用具」についての配慮を促すものです。

登下校時の荷物が多く負担になっているという声を受けての対応であると思います。本校では、教科書やその他の教材等は、宿題や予習・復習などの家庭学習に必要のものであると捉え、原則的に持ち帰るように指導してきました。一方、美術のデザインセットや書道セット、あるいは裁縫セット等については、学校で集中管理をしています。また、部活動グッズについては、それぞれの部の判断に任せていました。

本校でも大きな荷物をもって登下校をする姿を見かけることがあります。過度の負担が子供たちの体の成長によくないのは当然のことです。自転車通学のことを考えると、安全面でも荷物が少ないことに越したことはありません。そこで、現状を検討しなおし、本校では次のとおり対応することにしました。

〇教科書は原則的に毎日持ち帰るが、その他の教材等は、各自のロッカーに置いて帰ってよいとする。

〇デザインセットや書道セット等については、これまでどおり学校でまとめて管理する。

〇すべての部活動で、使用する道具等を学校に置いていってもよいとする。

教室の個人ロッカーは狭く、スリーウェイバック、ディバックだけでも一杯になってしまいます。これまでは体育館シューズも入れるようにしていましたが、置き用具が増えると入りません。そこで、体育館シューズは、机の横（通路の反対側）に掛けてもよいことにしました。また、部活動グッズについては、全ての部で学校に置いていってもよいこととし、各部の部室で管理します。それに伴い、部室の施錠管理を徹底していきます。

すでに実施しておりますが、保護者の方々には、どうかご承知おきください。

環境省で全国発表会＜自然科学部＞

夏休みに行われた「愛知県野生生物保護実績発表大会」において、本校自然科学部の発表が認められ、県知事賞を得ることができました。その後、県の推薦を受け全国の書類審査を経て、この度、環境省での全国発表が決まりました。

▲　モロコ池のしゅんせつの様子

自然科学部の地道な活動**＜絶滅危惧種のカワバタモロコの保護活動・学区の河川調査分析・北山湿地の保全活動＞**が高く評価され、大変うれしく思っています。全国の舞台で、自然科学部の活動成果を堂々と発表してきてほしいと期待しています。

11 月 3 日に行われる本校文化祭でも、全国発表の内容が聞けるようです。ぜひ多くの方にお聞きいただきたいと思います。

親しみやすく使える東海中図書館に！

本校の学校図書館は北舎３階の西にあり、２、３年生にはすぐには行きにくい場所にあります。そのため以前はあまり活用されることがありませんでしたが、昨年ぐらいから昼休みに足を運ぶ生徒が増えてきました。その大きな原因は、本校図書主任と教員補助者が、図書館を親しみやすく使いやすいところにしてくれたお蔭だと思っています。

本校では、３年前から学校図書館の再生に取り組んでいます。手始めに行ったのは、大量の本の廃棄でした。古くて役に立たなくなった情報の本や汚れて読まれなくなった本等を廃棄してもらいました。その数はざっと４千冊に及びます。廃棄によってスペースが生まれ、話題の本や作家のコーナーや時節にあった本を集めたコーナーを設けるなど、今も明るく魅力的な図書館になるように努力してくれています。

学校図書館には、読書センター、学習・情報センターとしての役割があります。言語能力の育成や豊かな心の醸成のための「読書センター」としての機能だけでなく、情報活用能力を育て、学習活動を支えるための機能も期待されています。新しい学習指導要領にも、このことが強調されていたと思います。

より使える学校図書館にしていかなければなりません。そのための条件整備の一つとして蔵書のデータベース化が必要であると考え、新たにシステムを導入することにしました。これによって、蔵書管理、貸し出し事務の効率化が図られます。また、子供たちの読書傾向がデータとして把握でき読書指導に生かすことができるだけでなく、より適切な選書が可能になります。また、グーグルなどのように「ワード」を入れれば蔵書が検索できるので、「情報・学習センター」としての機能を高めることも期待できます。学校の蔵書は限られるので、必要ならば岡崎市中央図書館や岡崎市教育研究所の蔵書チェックもその場でできるようになります。

システム導入には多額の費用がかかること、現在の蔵書（約 12,000 冊）をシステム化するためには膨大な労力がかかること等により、これまで踏み切れませんでした。しかし、必要性が益々高まってきたことを踏まえ、導入を決めました。費用については、先日行われた「寄贈品バザー」の収益金を充てさせていただきます。どうかご理解ください。

11 月の上旬にはシステムを導入します。今後新しく購入図書については、初めからバーコード化されますので問題はないのですが、現在の蔵書のバーコード化がたいへんな作業になります、これについては、図書主任と教員補助者が総力をあげて取り組んでくれます。それでも、すべての蔵書の処理が終わるのは来年度末までかかると予想されます。ただし、できる限り早く子供たちにシステムを活用してもらいたいという願いから、３学期にはシステムを稼働させたいと思っています。２学期中も閉館することなく、これまでどおりの貸し出し方法で対応していきます。